

Opening Message

シーキューブ・グループ「SGK2020」と「すごい会社」創り



シーキューブ株式会社
代表取締役社長 久保園 浩明



私たちシーキューブ・グループは次頁図に示す中期経営計画「SGK2020」達成に向け、新たな事業領域へ積極的なチャレンジを継続的に推進しており、2017～2019年度とこれらの取組みにより目標達成に向けて着実に進んできているところです。なかでも、情報サービス事業は、民需事業のWindows10更新需要による受注拡大や文教事業の大型案件の獲得等により、事業拡大に大きく貢献しています。

また、Raisers 2014年9月号で紹介したもう1つのチャレンジである「すごい会社」創りについては、本格展開から6年目の2017年度にその評価ポイントの合計が90.2ポイントと「すごい」評価を達成しましたが、2018・2019年度上期と「お客様（安全・安心）」「地域社会（クレーム）」のポイント低下により評価が徐々に低下し、「すごい会社」目標に届かない状況になってきています。特に「お客様（安全・安心）」指標については、事業を拡大してきたモバイル設備工事や一般設備工事における人身・設備事故の発生が影響を及ぼしており、「安全であること・事故がないこと」は、それだけでも素晴らしく幸せな会社であるとの考えに立って、私たちシーキューブ・グループ経営のDNAともいうべき「最善の技術でお客様や社会に貢献する」「安全を最優先する」という経営の基本理念を再確認し、これまでNTT様設備工事で改善・蓄積してきた安全施工のノウハウをこれら拡大分野での工事・保守にもしっかりと展開していきます。

「地域社会（クレーム）」指標については、私たちの施工状況や業務中の車両の運転状況などを記録して確認できるツールが普及し、それらの画像・映像をSNSなどで簡単に情報発信できる社会になってきているということも、より厳しく評価されるようになってきた要因の1つにあると考えられ、このような社会環境の変化についてもしっかりと意識して社会的な責任（CSR）を果たす取組みがより強く求められるようになってきていることを踏まえ、「すごい会社」創りに改めてチャレンジしてまいります。

2020～2021年は日本・社会（お客様）が大きく変化する年

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、2020東京オリンピック・パラリンピック大会は2021年度に延期されることになりましたが、オリンピック・パラリンピック等の開催される年は社会を大きく変える革新的な技術やサービスが生まれています。1964年に開催された、先の東京オリンピック開催の際、日本では新幹線・首都高速道路が開通、電池式小型クォーツ時計の開発など、新しい技術の導入により社会・サービスに大きな変化が訪れました。2020年の今回は「5Gモバイル通信技術」、「VR（仮想現実）技術」そして「AI（人工知能）技術」の進展が社会や私たちの生活・仕事を大きく変革するのではないかと考えています。「5Gモバイル通信技術」は高速・大容量通信も魅力ですが、社会を変える可能性が大き

シーキューブグループ中期経営計画『SGK2020』

基本方針

事業環境の変化の波を乗り越え、更なる成長へ挑戦し、すごい会社を目指す

経営戦略

事業環境の大きな変化に対応し、『事業構造を変革する』

- ①一般設備工事・情報サービス事業の飛躍的拡大 (Challenge)
- ②通信設備工事(NTT・移動)の基盤事業としての強化 (Change)
- ③次世代に向けた新たな収益の柱の創造 (Create)

事業戦略

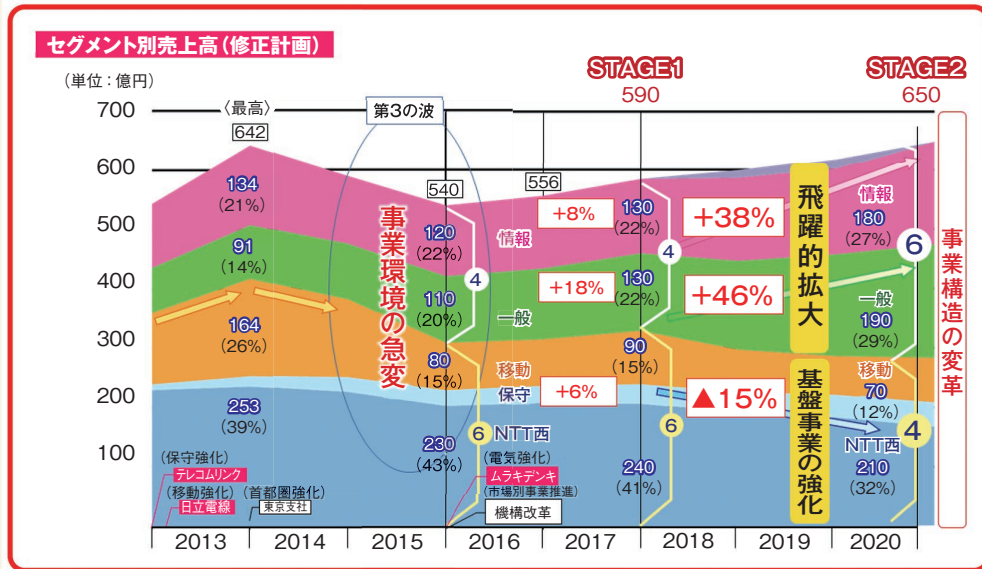
一般設備工事	既存事業の拡大とともに、新たな事業領域への積極的な挑戦
情報サービス事業	活性化する市場へパイオニアとしてグループを牽引する事業への成長
NTT通信設備工事	今後も基盤事業として更なる生産性の向上による利益の確保
移動通信設備工事	事業領域の拡大による売上高の維持と生産性の向上による利益の確保
新規事業	次世代に向けた新たな事業創造への挑戦

期間

SGK2020【2016～2020:5年計画】

経営目標

STAGE I (2016-2017:2年計画)	STAGE II (2018-2020:3年計画)
売上高 600億円 / 営業利益 20億円	売上高 650億円 / 営業利益 30億円
「グループ本来の実力値 600億円のステージへ回帰」	「事業構造の変革を加速し、 600億円をベースラインとする 持続可能なステージへ」 「営業利益率4%台の 筋肉質な企業体質への回復」



い特長として、非常に多くのICT端末が同時にネットワークに接続できることや多くの端末間の送受信間の「低遅延性」が挙げられます。つまり沢山の端末機器との情報のやり取りでリアルタイム性が飛躍的に高まり、遠隔地間での設備や車などに対する高度な遠隔監視・制御が実現できる可能性が生まれることとなります。

また「VR技術」は目の前で起こっているかのような臨場感を、「AI技術」は取り込んだ膨大な情報を基に利用者に「知識・知恵・経験」のサポートを提供できるようになると考えられます。

私たちもこれらの技術を活用することで業務における課題、例えば少数の施工監理技術者が複数の施工の現場の管理・監督業務を遠隔かつリアルタイムに運用

できたり、作業環境に潜む危険について、AIの大量の知見とVRによる体感を組み合わせて提供することで、より安全・安心な施工を実現することも可能になるかもしれません。私たちの仕事の仕方・働き方も大きく変革してくれる可能性もあります。私たち自らがこれらの新しい技術を積極的に業務運営やお客様提案に活用して「変わっていく」ことが大事なポイントです。

■「拡げよう」そして「今を変えよう」

私たちシーキューブ・グループにおいても2020年は中期経営計画SGK2020 STAGE IIの仕上げの重要な年でもあります。

私たちの事業環境は、5Gモバイル通信技術やVR・AI活用などの、社会の変革を創造する新しい技術がまさに芽生えの時期を迎えつつあり、社会のICT活用型サービス利用が進展する一方で、情報通信設備や基盤設備についてはオリンピック・パラリンピック向けなどの特殊な状況も一段落するなど、気になる変化の兆しも見せ始めています。事業分野ごとに見るとやや厳しい状況へと推移することも考えられる状況にあります。また、2020年に入ってから日本国内での新型コロナウイルス感染拡大により、多くの企業でテレワークなど新たなビジネススタイルが企業のBCP戦略として急展開を見せていますし、学校など教育の現場でも遠隔授業などへの取組みが進もうとしています。これらの「環境変化の兆し」をいち早くとらえ、それに新しい考え・知恵で「適応」し「変化の波を乗り越えて」SGK2020の目標を達成するために、私がシーキューブ・グループの従業員と共有し一緒にチャレンジしていることを2つ紹介します。

1つは「**拡げる**」ということ。これは変化・高度化するお客様（社会）に対応していくために1人ひとりが「**技術の幅**」を拡げる、自身以外の事業分野にも「**視野を広げる**」、私たち個々の生活の中で起こっている変化が何を求めていることなのかを理解し、そこから私たちの事業・仕事にも「**考えを拡げる**」ことにより、シーキューブ・グループ全体の力を一回りも二回りも成長させ、ICTが社会基盤となりつつある中で私たちシーキューブ・グループが貢献できる新たな事業領域拡大につながると考えています。

もう1つは「**今を変える**」ということ。ラグビーワールドカップ・南アフリカ大会で日本チームのキッカーを務めた五郎丸歩さんが伝える「**今を変えなければ、未来は変わらない**、今、この瞬間、全力を出しているか？一歩でも前にでてしているのか？その積み重ねでしか自分の望む未来は創れない。今を変えろ！」という言葉から取り上げました。

これからも、私たちシーキューブ・グループや通信建設会社の事業環境はいくつもの大きな変化に直面すると思います。変化の兆候を敏感に察知し、それを乗り越えるために、私たち1人ひとりが常にそれに適応し進化していくことが大事です。

これまで私たちがチャレンジし変革を実現してきた経験が、シーキューブ・グループをさらに発展させていくと確信しています。私たちシーキューブ・グループの目指す輝かしい未来を現実のものとするために、「**拡げる・今を変える**」行動をシーキューブ・グループ従業員とともに推進していきます。